

南島文化研究所報

沖縄国際大学南島文化研究所
〒901-2701 沖縄県宜野湾市宜野湾二丁目6番1号

所長 田名真之
電話 098-893-7967

共生の景観

崎 浜 靖
(経済学部経済学科)

琉球列島の島々の中で、景観的な意味において特異な島といえば、大東諸島が挙げられよう。

大東諸島は、フィリピン海プレート上に、南大東島、北大東島、沖大東島(無人島)がある。沖縄本島からは、東方に360km余も離れている。なかでも南大東島の景観は、その大陸的な自然環境と生活様式から紡ぎ出された、独特な魅力を醸し出している。



南大東島の水辺の景観

南大東島の自然景観は、島の中央部の凹地と、それを取り巻く環状の丘(標高40~80m)から成る地形に特徴づけられる。

南大東島は、サンゴ礁が隆起して形成された「隆起環礁」である。そのため、集落のある中央部分がへこんでおり、島の周辺部の丘に昇らなければ、海を遠く見渡せない環境にある。島を歩いていると、つい大陸的な感覚を持ってしまうのも、この独特な地形によるところが大きい。

また島の中央部の凹地には、大池、瓢箪池ひょうたん池など名前のついた20以上のカルスト湖沼群があり、世界的にも珍しいとされる。湖沼が少ない沖縄県において、海岸部を除いて、これほどの水辺が広がる場所は外にはない。

しかし、豊かな水辺の景観とは裏腹に、降水量と蒸発量の比率などから算出した水収支法(ソーンズウェイト法)から島の気候環境をみると、南大東島は、日本で最も「乾いた場所」の一つである。

それを実感するのは、天水を溜めるコンクリートで造られた水タンクの存在である。この水タンクは、水辺の土地と乾燥した大地が併存する南大東島を象徴する景観でもあり、現在でも使用されている。

私自身も「断水」が当たり前であった小中学生時代には、天水を溜めた水タンクにはお世話になった。今でも、「甘い」天水のお茶の味を懐かしく思う時がある。



天水を溜めた水タンク

ところで、南大東島は、サトウキビの島でもある。この亜熱帯の乾燥した土地に適したサトウキビは、島の大地に深く根を下ろしている。かつてはサトウキビを運搬する鉄道もあった。南大東島の農耕景観の魅力は、自然景観と同様に大陸的な雰囲気漂っていることである。

南大東島のもう一つの魅力は、何と云っても文化の多様性にある。1900年に八丈島島民によって入植が開始されてから、いろいろな地域から人々が集まってきた。

これまで私が接した人々の出自をみると、沖縄本島以外では、八丈島、宮古島、久米島、伊是名島、伊平屋島、瀬底島など、シマからシマへ移動してきた人々、あるいはその子弟が多くみられる。それはまた、言語(シマクトゥバ)、生活様式などの「異文化」が混在しながら、多様な社会空間が形成されていることを示唆するものである。大袈裟な言い方をすれば、新しい沖縄のシマ社会を実感できる場所が、南大東島ではないかと思う。

私は、多様な自然と文化が織りなすシマの景観を、「共生」をキーワードに読み解いてみたいと思う。

2012年度人事

所長：田名真之（総合文化学部教授）

副所長：井村弘子（総合文化学部教授）

2012年度新規特別研究員

（任期：2012年4月1日～2014年3月31日）

助重雄久 富山国際大学現代社会学部准教授
（人文地理学）

上地美和 大阪大学大学院文学研究科博士課程文化形態論日本学専攻（沖縄社会研究）

島津 弘 立正大学地球環境科学部地理学科
（自然地理学・地理学）

照屋 理 沖縄公文書館公益財団法人沖縄県文化振興会嘱託員（琉球文学）

栗国恭子 沖縄国際大学非常勤講師（文化人類学・民俗学）

呉屋淳子 日本学術振興会特別研究員（文化人類学）

2012年度会議及び議題

第1回所員会議

日時：2012年5月14日（月）

午後4時20分～6時

場所：13号館1階会議室

報告事項

1. 2012年度執行体制について
2. 2011年度事業報告について
3. 2011年度予算執行状況について
4. 2012年度事業計画について
5. 2012年度行事予定について
6. シマ研究会について
7. 韓国関係者の来訪について

審議事項

1. 2012年度所員の更新について
2. 2012年度特別研究員の更新について
3. 2012年度事業予算について
4. 第34回南島文化地域学習の実施について
5. 第34回南島文化市民講座の開講について

第2回所員会議

日時：2012年12月17日（月）

午後0時20分～1時

場所：13号館1階会議室

報告事項

1. シマ研究会について
2. 第34回南島文化地域学習について
3. 2012年度湖南学研究院協定研究所国際学術大会について
4. 南島研セミナーについて
5. 第34回南島文化市民講座について
6. 福建師範大学との学術交流講演会について
7. 南大東島調査について

8. 韓国調査について
9. 台湾・福建調査について
10. 旧南洋群島調査について
11. 第17回窪徳忠琉中関係研究奨励賞について
12. 第2回南大東島調査報告講演会について
13. 今年度発行の印刷物について
14. 事業費予算執行状況について

審議事項

1. 2013年度 新規特別研究員の選定について
2. 2013年度 事業計画(案)について
3. 2013年度 事業費予算(案)について
4. その他
新3号館建設に際し、所蔵資料の保管及び展示施設の整備に関する要望書

第3回所員会議

日時：2013年2月28日(木)～3月1日(金)

場所：電子会議

報告事項

1. 第35回南島文化地域学習について
 2. 紀要『南島文化』第35号について
 3. 第17回窪徳忠琉中関係研究奨励賞について
- #### 審議事項
1. 「窪徳忠琉中関係研究奨励基金規程」の一部改正(案)について
 2. 「窪徳忠琉中関係研究奨励賞細則」の一部改正(案)について

2012年度事業報告

第177回シマ研究会

日時：2012年5月24日(木)
午後4時20分～6時

講師：上原富二男氏
(南島研特別研究員・沖縄大学教授)

テーマ：地理学からみた沖縄戦の戦場

コメンター：渡邊康志氏
(南島研特別研究員・GIS沖縄)

司会：小川 護 所員(経済学部教授)

参加者：20人



報告者の上原富二男氏

第178回シマ研究会

日時：2012年7月23日(月)午後4時20分～6時
(台風のため6月18日から延期)

講師：田場裕規 所員(総合文化学部講師)

テーマ：組踊の身体

－身体感覚・身体技法の継承－

コメンター・司会：狩俣恵一 所員
(総合文化学部教授)

参加者：32人



報告者の田場裕規所員(右)

第179回シマ研究会

日時：2012年7月10日(火)
午後4時20分～6時

講師：赤嶺ゆかり氏(本学非常勤教員)

テーマ：脱植民地化の視点とハワイアンルネサンス

－ハワイアン主体の文化および教育実践とは何か－

コメンター：桃原一彦 所員(総合文化学部准教授)

司会：兼本 敏 所員(総合文化学部教授)

参加者：26人



報告者の赤嶺ゆかり氏

ルル・アグノエルのフィールドワーク調査～

参加者：57人



講師のパトリック・ベイヴェール氏

第180回シマ研究会

日 時：2012年10月15日（月）
午後4時20分～6時

講 師：江上幹幸 所員（総合文化学部教授）
テーマ：インドネシア、ラマレラ村の捕鯨文化とその変化

コメンター：萩原左人氏
（南島研特別研究員・琉球大学法文学部教授）

司 会：山入端津由所員（総合文化学部教授）
参加者：14人



報告者の江上幹子所員

第34回南島文化地域学習

日 時：2012年7月8日（日）
午前9時～午後5時

テーマ：沖縄国際大学周辺の自然と文化
～宜野湾の地名を歩く～

場 所：宜野湾市宜野湾・佐真下・我如古
参加者：18人



普天間基地内の遺跡について説明する講師の仲村氏

第24回南島研セミナー

日 時：10月29日（月）
午後4時30分～6時30分

会 場：13号館3階301教室
講 師：パトリック・ベイヴェール氏
（フランス科学研究庁社会科学高等研究院 日本研究所教授・研究部長）

テーマ：古代日本文化の鏡を越えて
～1930年の沖縄に関する仏国のシャ

第35回南島文化地域学習

テーマ：宜野湾市喜友名と大山の自然と文化
日 時：2013年2月3日（日）
午前9時～午後4時

場 所：宜野湾市喜友名・大山
参加者：30人



喜友名の地名について説明する講師の金城氏



受賞者の山田浩世氏

第34回南島文化市民講座

日 時：2012年11月10日（土）

午後2時～5時

会 場：5号館106教室

テーマ：世変わりの後で復帰40年を考える

講 師：名城 敏 所員

上原 静 所員

稲福みき子 所員

グラス・ドライスタット 所員

コーディネーター：田名真之 所長

司 会：鳥山 淳 所員

参加者：47人



南島文化市民講座の総合討論

第2回南大東島調査報告講演会について

日 時：3月27日（水）午後2時～5時

テーマ：南大東島における臨床社会心理学的研究－困りごとをどう解決しているのか－

講 師：山入端津由 所員「巫者の業とその変遷」

井村弘子 所員「島での暮らし」

泊 真児 所員「問題解決の方法に関する論理的視座」

会 場：南大東村立ふるさと文化センター

参加者：16人



南大東村調査報告講演会の講師

第17回窪徳忠琉中関係研究奨励賞

受賞者：山田浩世 氏

（琉球大学島嶼防災研究センター特命助教）

審査委員会・運営委員会：2013年2月13日開催

贈呈式・祝賀会：2013年3月8日（金）

会 場：厚生会館4階ホール

全南大学校湖南学研究院協定研究所国際学術大会

日 時：9月21日（金）午前10時～午後6時

会 場：韓国・全南大学校

テーマ：東アジアの文化交流と感性

報告者：①田名真之 所長

「反復し、増幅される記録、そして物語へ－濟州島の漂着琉球船襲撃

事件-」

②儀間淳一（研究支援助手）

「20世紀初頭の訪韓記事を通してみた、沖縄人の韓国への眼差し」

参加者：稲福みき子 所員



韓国全南大学校で行われた協定研究所国際学術大会

福建師範大学中琉関係研究所との学術交流講演会

日時：2012年11月17日（土）午後1時～5時

会場：13号館301教室

テーマ：中琉交流史の新地平

—協定締結10年を振り返って—

講師：①謝 必震氏（福建師範大学）

「学術の刷新 協力の超越

—両研究所の交流協力関係樹立10周年の回顧

②波平勇夫氏（本学名誉教授・特別研究員）

「国際学術交流の新しい段階に向けて」

③徐 斌氏（福建師範大学）

「アモイの小嶼島と清代中琉歴史関係の考察」

④田名真之 所長（総合文化学部教授）

「琉球家譜と中国族譜」

⑤陳 碩炫氏（福建師範大学）

「琉球貢船臨時停泊地の林浦について」

⑥上原 静所員（総合文化学部教授）

「琉球王国と中国福建との生産技術交流－瓦窯技術と石棺彫刻技術－」

司 会：崎浜 靖所員（経済学部准教授）

参加者：38人



福建師範大学との学術交流講演会の総合質問（本学）

調査研究

大東諸島調査の参加者と研究テーマ

山入端津由 所員

「南大東島における住民意識の心理学的研究」

井村弘子 所員

「南大東島における住民意識の心理学的研究」

泊 真児 所員

「南大東島における住民意識の心理学的研究

吉浜 忍 所員

「大東諸島の沖縄戦」

杉本信夫氏（特別研究員）

「南大東島の相撲甚句・祭囃子・大東太鼓の変容」

波平エリ子氏（特別研究員）

「南大東島の糖業と軽便鉄道の敷設」

近藤健一郎氏（特別研究員）

「大東諸島における教育と歴史」

韓国調査の参加者と研究テーマ

呉 錫畢 所員

「巨濟島における経済特区の状況について」

名城 敏 所員

「韓国巨濟島の自然環境」

田名真之 所長

「中近世における琉球と朝鮮の交流史」

澤田佳世 所員

「韓国・巨濟島の多文化家族とジェンダー再配置」

尚 真貴子 所員
「韓国（釜山及び巨済島）における日本語教育の現状と課題」

徳永賢治 所員
「韓国法思想史」

上原 静 所員
「琉球諸島における高麗瓦の系譜研究（窯業技術を通しての文化伝播）」

台湾・福建調査の参加者と研究テーマ

兼本 敏 所員
「台湾におけるe-Learning教材の現状（簡体文字の取り扱いについて）」

田名真之 所長
「中国明代の海外貿易港の調査」

上原 静 所員
「中国における明代の建造物および窯業生産について」

儀間淳一（研究支援助手）
「中国における塩業資料の調査」

旧南洋群島調査の参加者と研究テーマ

大城朋子 所員
「旧南洋群島における言語接触の実態調査」

稲福日出夫 所員
「パラオ在住沖縄県系人の郷土に対する思い」

兼本 敏 所員
「旧南洋群島における中国語教育の実態－南下政策について－」

尚 真貴子 所員
「パラオ共和国における日本語及び日本語教育の現状と課題」

岩田直子 所員
「社会福祉ニーズを抱える人から見るパラオの社会開発の現状について」

鳥山 淳 所員
「パラオ共和国における歴史認識と継承活動」

祖慶壽子氏（特別研究員）
「パラオの言語教育について」

2013年度新規特別研究員

（任期：2013年4月1日～2015年3月31日）

梅木哲人 法政大学沖縄文化研究所客員所員
（日本近世史）

大濱 聡 元日本放送協会（NHK）ディレクター・プロデューサー（沖縄現代史）

渡辺美季 神奈川大学外国語学部国際文化交流学科准教授（琉中交流史）

2013年度会議及び議題

第1回所員会議

日 時：2013年5月13日（月）
午後4時20分～5時35分

場 所：研究所会議室（13号館1階）

報告事項

1. 2013年度執行体制について
2. 2012年度事業報告について
3. 2012年度予算執行状況について
4. 2013年度事業計画について
5. 2013年度行事予定について
6. 2013年度事業費予算について

審議事項

1. 2013年度所員の更新について
2. 2013年度特別研究員の更新について
3. 各種委員・研究会の世話人の選出について

第2回所員会議

日 時：2013年12月9日（月）
午後4時20分～5時30分

場 所：研究所会議室（13号館1階）

報告事項

1. 第181～185回シマ研究会について
2. 第36回南島文化地域学習について
3. 第35回南島文化市民講座について
4. 協定校間学術交流講演会について
5. 大東諸島調査について
6. 韓国調査について
7. 旧南洋群島調査について
8. 中国調査について
9. 第18回窪徳忠琉中関係研究奨励賞について
10. 第1回北大東島調査報告講演会
11. 今年度の刊行物について

12. 事業費予算執行状況について

審議事項

- 1. 2014年度新規特別研究員の選定について
- 2. 2014年度事業計画(案)について
- 3. 2014年度事業費予算(案)について
- 4. 所長選挙の実施について

第3回所員会議

日時：2014年2月17日(月)～2月21日(金)

場所：電子会議

報告事項

- 1. 第186回シマ研究会について
- 2. 第187回シマ研究会について
- 3. 今年度発行の印刷物について
- 4. 窪徳忠琉中関係研究奨励賞について

審議事項

- 1. 所長選挙の結果について
- 2. 副所長の選任について
- 3. 2014年度の事業計画委員の選任について

第182回シマ研究会

日時：2013年6月10日(月)

午後4時20分～5時50分

講師：李允先氏(木浦大学校研究教授兼鹿
児島国際大学外国人教授)

テーマ：韓国の南道文化について

コメンテーター：稲福みき子 所員

司会：呉錫畢 所員

参加者：30人



報告者の李允先氏

2013年度事業報告

第181回シマ研究会

日時：2013年5月20日(月)

午後4時20分～5時50分

講師：稲福政斉氏

(南島研特別研究員・糸満市教育委員会)

テーマ：近世琉球における書跡の用印について

コメンテーター：幸喜洋人氏(謙慎書道会理事)

司会：小川護 所員

参加者：40人



報告者の稲福政斉氏

第183回シマ研究会

日時：2013年7月22日(月)

午後4時20分～5時50分

テーマ：戦後史の中の「国際通り」

講師：大濱聡氏(南島研特別研究員)

コメンテーター：上江洲薫 所員(経済学部准教授)

司会：山入端津由 所員(総合文化学部教授)

参加者：26人



報告者の大濱聡氏

第184回シマ研究会

日 時：10月11日（金）
 午後4時20分～5時50分
 （台風24号接近のため7日から延期）
 講 師：波平エリ子氏（南島研特別研究員）
 テーマ：那覇市小緑地域の拝所とその変容
 コメンター：稲福みき子 所員
 司 会：崎浜 靖 所員
 参加者：30人



報告者の波平エリ子氏

第186回シマ研究会

日 時：2014年1月27日（月）
 午後4時20分～5時50分
 テーマ：『琉球処分』の再検討
 - 明治政府による琉球の併合と王権 -
 講 師：後田多 敦 氏（南島研特別研究員）
 コメンター：田名 真之 所長（総合文化学部教授）
 司 会：呉 錫畢 所員（経済学部教授）
 参加者：86人



報告者の後田多 敦氏

第185回シマ研究会

日 時：2013年11月18日（月）
 午後4時20分～5時50分
 講 師：下地 賀代子 所員
 （総合文化学部准教授）
 テーマ：琉球語をとりまく諸問題
 - 多様性の観点から -
 コメンター：野原 三義 氏
 （本学名誉教授・南島研特別研究員）
 司 会：西岡 敏 所員（総合文化学部教授）
 参加者：23人



報告者の下地賀代子所員

第187回シマ研究会

日 時：2014年2月18日（火）
 午後4時～5時30分
 テーマ：李良枝 (Yi Yang-ji) の『かずきめ』
 『由熙』を読む - 沈黙、暴力、そして不在の両義性 -
 講 師：ヴィクトリア・ヤング氏
 （リーズ大学博士課程）
 コメンター：浜川智久仁氏（琉球大学修士課程）
 司 会：黒澤亜里子所員（総合文化学部教授）
 参加者：13人



報告者のヴィクトリア・ヤング氏

第36回南島文化地域学習

日 時：2013年6月29日(土)～30日(日)

1泊2日

場 所：伊平屋村

参加者：35人



伊平屋村クマヤーガマ前にて

第35回南島文化市民講座について

日 時：2013年12月7日(土) 午後2時～5時

会 場：名護市立中央公民館1階

第1・2研修室

テーマ：やんばるの戦後生活を考える
～その基層・変容・継承について～

報告者：第I部 やんばるの戦後を考える視点

- ①仲原弘哲氏(南島研特別研究員・今帰仁村歴史文化センター館長)
生業と祭祀から見る戦後の生活変容

- ②崎浜 靖 所員(経済学部准教授)
村落景観からみる戦後の生活変容

コメンター：中村 誠司氏(名護市史編さん委員)
第II部 生活文化の継承・活用の可能性

- ①深田友樹英氏(名護市地域づくりコーディネーター)
- ②阿野翔大氏(地域発見系学生集団ディスカバリー代表)

コメンター：鳥袋正敏氏(名護市史編さん委員)

司 会：鳥山 淳所員

主 催：南島文化研究所・名護市教育委員会

共 催：沖縄タイムス社

参加者：78人



南島文化市民講座の質疑応答

全南大学湖南学研究院との協定校間学術交流講演会

日 時：2013年12月14日(土)

午後1時～5時

会 場：13号館3階301教室

テーマ：韓国と沖縄の感性の表象

発表者：波平エリ子氏(南島研特別研究員)

拝所の変容からみる感性－那覇市の事例から－

崎浜 靖 所員(経済学部准教授)

伝承から読み解く宮古島のマラリア

金 容儀氏(全南大学校人文大学教授)

沖縄の御後絵と朝鮮の仏教絵画の比較

趙 泰晟氏(全南大学校湖南学研究院研究教授)

妓女の愛、感性の真偽

コメンター：鄭 明仲氏(湖南学研究院助教授)

通 訳：崔 元鐘氏(湖南学研究院研究員)



全南大学湖南学研究院との協定校間学術交流講演会(本学)

第18回窪徳忠琉中関係研究奨励賞

受賞者：前田舟子 氏

(琉球大学国際沖縄研究所プロジェクト研究支援員)

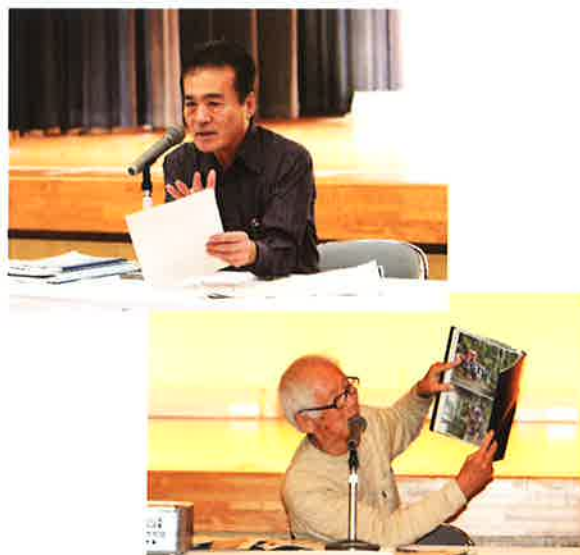
審査委員会・運営委員会：2014年2月19日開催

贈呈式・祝賀会：2014年3月7日(金)

会 場：厚生会館4階ホール



受賞者の前田舟子氏



杉本 信夫

講師の吉浜忍所員(左上)と杉本信夫特別研究員(右下)

第1回北大東島調査報告講演会について

日 時：3月20日(木)午後6時～8時

報告①：大東諸島の沖縄戦－北大東島を中心に－

講 師：吉浜 忍 所員

報告②：南北大東島の伝承音楽の現状と、変容、そして発展に向けて

講 師：杉本信夫 特別研究員

会 場：北大東村人材交流センター

参加者：18人

訃報

南島文化研究所第7・9代所長の高橋俊三先生(本学名誉教授)が2012年5月14日に逝去されました。71歳でした。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

表現、創造の自由を阻む 「秘密保護法」施行

特別研究員 杉本信夫
(作曲・沖縄伝承音楽研究)

戦前の「治安維持法」の現代版「秘密保護法」が、昨年(2013年)の12月6日に強行採決、12日には公布された。目下、政府は1年以内の「施行」を目論み着々と準備を進めている。

「秘密保護法」は、日本の安全保障に支障をきたすとする情報を「特定秘密」とし、これを

公表した者を懲役刑に処するという。「特定秘密」の対象はあいまいで、際限なく拡大解釈ができるものだと言われている。これが「施行」されれば「法」が独り歩きし、人々の思想信条の自由、表現の自由が侵害されていくのは、「君が代」の国歌法制化を許した例ですすでに明らかである。

オスプレイ反対も、辺野古への米軍基地拡張移転に反対することも、戦争で多くの人々が殺された沖縄で平和憲法を守ろうとすることも「法」の下に官憲によって拘束され罰せられ

る恐れがある。

沖縄は、日本でもっとも伝統芸能、芸術の盛んなところである。このような「法」によって、芸能、芸術家たちの創造、表現の自由が奪われ、“自己規制”ひいては体制への“迎合”、積極的な“加担”へと道が開かれていくのではないかと危惧させられる。

自由なくして真の芸能、芸術の存在はありえない。これまでどれだけの芸術家が体制の“生贄”にされたか、20世紀になってからも非道なナチスの強制収容所、スターリンによる粛清等を思い起こしてみたい。

大正デモクラシーの時期に、『赤トンボ』『からたちの花』『この道』などの名曲を残した山田耕筰が、戦時中107曲もの軍歌、軍国歌謡を作曲したことを御存知だろうか。彼は将官級の待遇で軍刀を佩き、音楽挺身隊長となって3000人もの音楽家を組織し強制的に軍慰問、軍需工場への戦意高揚、激励に行かせたのである。

山田耕筰作曲の『燃ゆる大空』は、当時小学生だったわたしの愛唱歌であった。天皇の“赤子（せきし）”として憧れの少年航空兵、特攻隊に志願するのが「小国民」の報国の証であった。しかし戦局が緊迫し、山奥に疎開させられて、そこで受けた天皇制軍国主義による、言語に絶する差別と虐待は、今もって心身ともに忘れられるものではない。

ところが日本の敗戦によって価値観が180度転換、天皇主義が「民主主義」へと、その大人たちの変わり身の速さに、子供心は行き場のない不信感に満たされたものであった。

編集後記

所報の題字を繰り返しコピーして使用したためか、字の輪郭がぼやけてきたので、所報第1号（1978年6月22日発行）の題字をデジタル化して使用した。題字は初代所長の宮城栄昌先生の揮毫で、その筆致からは研究所設立への意気込みが伝わってくる。

印刷所に題字のスキャニングを依頼するために書庫から第1号を取り出した。記事に目

戦前、留学しヨーロッパの近代的な芸術文化を享受してきた作曲家山田耕筰は、戦後一言の反省もなく、「天皇は戦犯にならなかった、天皇に従った自分が戦犯に問われるのなら日本人すべてが戦犯だ」と居直っている。当時はほとんどの作家や美術家も積極的な戦争協力者になっていった。そうしなければ執筆停止、監獄送りであったのだ。しかしこのような言を許容するような、自己批判精神のない日本の芸術家たちにとって、一体戦後とは何だったのか、とってしまう。

『えんどうの花』などの作曲で知られた宮良長包は、昭和7年（1932）元旦号の『八重山民報』で、「吾々の祖先は実に聡明であった…偉人を他に求めるより我が八重山に求め…、吾等の立てる所を掘りましょう、そこにはきよい泉が湧き出るでしょう」と述べている。なんとこの年には「上海事変」で日本の中国侵略が拡大され、翌年には日本がナチスドイツと共に国際連盟を脱退し、暗黒の軍国主義へ突き進んだ時代であったのだ。この宮良長包の言葉を「沖縄に求め…」に置き換えれば、現代にも通じる金言である。

『歴史は繰り返す』と言われるが、沖縄の若い人たちには過去の歴史と、沖縄の現実を直視してもらいたい。為政者が企む諸悪の根源である戦争への道は許せない。人間の尊厳と自由を守ることは、人類の平和と文化の発展の必須の条件だと思う。これを束縛し否定するのが今回の「秘密保護法」である。

（満80歳、“傘寿”を迎えた無職透明仙人より、2014.3.19記）

を向けると、研究所を設立はしたものの資金繰りをはじめ課題が山積で、当時の略称「南文研」を「ナンモンケン」と揶揄されたことが記されている。

あれから36年、現在もそれなりに課題はあるが、設立当初の苦勞に比べれば足元にも及ばない。新年度を目前に身の引き締まる思いであった。（儀間）